

オセロ大会でチームの仲間と勝利を喜ぶ学生たち＝熊本市西区



人工知能

AI技術 白黒つける 崇城大生 オセロ対戦

崇城大（熊本市西区池田）の情報学部の新入生約140人が18日、大学内で人工知能（AI）を使ったチーム対抗のオセロ大会に挑んだ。コンピュータプログラムの仕組みや面白さを知ってもらおうと、大学が初めて開いた。

7、8人の19チームに分かれ、約2週間かけて「戦略ファイル」を用意。オセロ盤の全64マスのうち、勝敗を決める上でどのマスがどの程度重要なのかを点数でランク分けして、教員が製作したプログラムで対戦した。

対局はコンピューターで自動的に進むため、1局7～8秒で終了する速い展開。スクリーンに映し出されたオセロ盤が白や黒に埋まるたびに、学生から歓声が上がった。優勝チームの是永拓海さん（18）は「チーム内でいろんな考え方やアプローチがあったけど、それらを結集することでより良い戦略を立てられた」と振り返った。副賞は学食の食事券。

西宏之学部長は「講義で学ぶ内容がどのようにつなげるのかを最初に示すことで、モチベーションにつながるのでは」と話し、学生の今後に期待していた。（立石真一）